View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kwansei Gakuin University Repository

関西学院大学リポジトリ
Kwansei Gakuin University Repository

<巻頭言>退職記念によせて ： 「関学ソーシャルワーク」から「関学人間福祉」へ

著者	大和 三重
雑誌名	Human Welfare : HW
巻	10
号	1
ページ	1-1
発行年	2018-03-10
URL	http://hdl.handle.net/10236/00027429

巻頭言

退職記念によせて

ー「関学ソーシャルワーク」から「関学人間福祉」へー

人間福祉学部長　大　和　三　重

もうすぐ 2017（平成 29）年が終わろうとしている。年の瀬に選ばれる世相を表す漢字が、今年は「北」であった。「北」という字が示す通り、北朝鮮による核開発を目指した度重なるミサイル発射によって安全への不安と危機感が煽られ、平和な日常生活のありがたさと同時にその危うさを痛感する一年となった。さらに、トランプ大統領によるイスラエル偏重の政策転換は中東をめぐる紛争に刺激を与える恐れがあり、緊迫した世界情勢となっている。国内では、平成天皇の退位の時期が正式に決まった。2019（平成 31）年 4 月 30 日に退位され、翌 5 月 1 日から新しい年号が始まるという。まさに時代の移り変わりを実感する。翻って人間福祉学部も大きな変革期に直面している。昨年度は 5 人の教授陣が定年退職された。そして今年度も 2 名の先生方が定年を迎えられる。本誌は退職される芝野松次郎教授と小西加保留教授の退職記念号である。

両先生はそれぞれソーシャルワーク実践と理論研究において我が国を代表する研究者であり、常に先進の研究に取り組む姿勢は他の研究者にとってロールモデルとなって来られた。お二人は「関学ソーシャルワーク」の基盤を支え、その発展を牽引して来られた「関学ソーシャルワーク」の看板であり、代名詞である。芝野先生は前身の社会学部時代から人間福祉学部設立準備室の代表としての重責を担われ尽力された。その後人間福祉学部でも初代学部長として 2 期 4 年間務められた「学部創設の父」である。ソーシャルワークにおける EBP 研究の先駆者であり、著書『ソーシャルワーク実践モデルの D&D-プラグマティック EBP のための M-D&D』は若手研究者のバイブルとなっている。一方、小西先生は医療ソーシャルワーカーとしての豊富な実践経験をもとに研究者に転じられ、ソーシャルワークにおけるアドボカシーの概念化に貢献された。なかでもその視線は一貫して社会の偏見や差別に苦しむ HIV/AIDS の患者たちに向けられており、小西先生のソーシャルワーカーとしての強い信念と原点がそこに見られる。著書『ソーシャルワークにおけるアドボカシーについて－HIV/AIDS 患者支援と環境アセスメントの視点から』をはじめ数々の業績を残しておられる。

2008 年に開設した人間福祉学部および人間福祉研究科は本年で 10 年目を迎えた。本学部の 10 年の歩みを振り返るとき、昨年度に退職された 5 人の先生方と芝野先生および小西先生の大きなお働きを覚えずにはいられない。10 年を一区切りとするなら、スタートの 10 年はこれらの先生方によって人間福祉学部の盤石の基礎を築いていただいた。さて、これからの 10 年、20 年をどのように発展させていくのか。明確なビジョンを掲げ、学生も含め教職員一同で共有する作業が必要となる。残された私たちにできることは、偉大な先輩に続く研究・教育・実践を行い、「関学ソーシャルワーク」から「関学人間福祉」へと展開し、世界にアピールする次世代を育てることではないだろうか。

最後に、退職される芝野松次郎先生、小西加保留先生のご功績を称え、益々のご健勝をお祈りするとともに今後も変わらぬご指導とお力添えをお願い申し上げる。